

【事例 H27-03-01】 長野県

長野県薬剤師会の自殺対策への取組 ＝自殺対策・過量服薬防止への貢献をめざして＝

既存の社会資源である地域の薬局や薬剤師を自殺対策に活用するために、薬剤師を対象としたゲートキーパー養成研修会の実施、薬剤師会の会員薬局および会員の勤務する病院・診療所へのテキスト（「ゲートキーパーのためのテキスト」および「自殺関連相談ハンドブック」）の配布、かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リストの作成・配布等を行った。

【実施主体】 長野県薬剤師会

【大綱の分類】 3) 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する

6) 社会的な取組で自殺を防ぐ

【事業予算】 1580 千円 (H. 26 年度)

内訳：講演料：200,466 円 講師交通・宿泊費 70,980 円

担当者旅費：210,880 円 資料作成費 116,640 円

啓発用ポケットティッシュ作成：592,920 円

啓発用しおり作成：387,936 円

【利 点】

- ▼既存の社会資源（地域の薬局・薬剤師）を、地域の自殺対策に巻き込むきっかけとなる。
- ▼薬局は地域の健康拠点のひとつであり、住民の生活や心身の状態に接する事が出来る。
- ▼日常業務の延長上で行える活動である為負担が少ない。
- ▼薬剤師は薬剤のみならず、疾患に関する病態生理学的な知識も有しており、各診療科で把握しにくい患者の全体的なフォローができる。

【実施に至るまで】

薬剤師を対象とした理由

- ① 平成 22 年厚生労働省自殺・うつ病等対策プロジェクトチームにより「[薬剤師の活用](#)」という提言が出された。
- ② 自殺対策総合対策大綱に、ゲートキーパーとしての役割を担う為の薬剤師の人材育成について盛り込まれている。
- ③ 近年向精神薬の過量服薬と自殺の関連が指摘されている事から薬剤師がゲートキーパーとして自殺防止に貢献する事が求められている。
- ④ 薬剤師はリスクの高い患者の早期発見と、医療に結び付けるためのキーパーソンとなり得る。
- ⑤ 薬剤師は医療を受ける患者が最後に接する医療従事者であり、長期間に渡り患者と関わり続ける職種でもあるため、セーフティネットの一員として連携後も見守り続けることが可能である。
- ⑥ 薬剤師は利用者の変化に気づきやすく、また接客の中で気軽に会話できる立場にある。
- ⑦ 研修で得た知識を、日ごろの業務ですぐに活かしてもらいやすい。

計画を立てる上での工夫

- ① 薬剤師が専門職としてゲートキーパーの役割を担う意味を伝え、研修受講の動機づけを図った。

- ② 研修のほか討議やロールプレイなども行ない、業務の中で実際の対応に役立つ内容にした。
- ③ 県薬剤師会の地域代表者を通じて、各地域薬剤師会全会員へ伝達している。
- ④ 薬局に繋がりにくい若い世代への有効なアプローチ手段として、啓発しおりを書店で配布している。

- ・長野県精神保健福祉センターと連携を図り、指導を受けながら取り組みの企画等を行った。
- ・薬剤師が参加しやすい日曜日に開催した。
- ・日曜日の午後に開催することで、遠方からの参加者に配慮した。
- ・各地域薬剤師会においても伝達研修会を開催し、広く薬剤師が参加できるようにした。

具体的な内容

▼研修会

①講演

- ・県精神保健福祉センター長によるゲートキーパー養成講義座
- ・地域薬剤師会のモデル事業、救急治療センターの精神保健福祉や精神科医による患者の現状報告、現代版うつ病など

②グループ討議とロールプレイ (H26年度のテーマは、「産後うつ病」)

- ・少人数のグループに分かれ、薬剤師の視点でどのようにゲートキーパーとしての役割を果たすか、薬剤師の気づきのポイント、具体的な声掛け、対応策を討議
- ・事例を基に、自殺を防ぐための効果的な服薬指導のシナリオを各グループで作成
- ・ロールプレイで、実際の服薬指導場面での具体的なやりとりのイメージを描きやすくした
- ・研修後アンケートを実施(有用度、感想、意見など)

▼テキスト配布とゲートキーパー養成研修動画の周知

- ①長野県精神保健福祉センターで作成した「[ゲートキーパーのためのテキスト](#)」と「[自殺関連相談ハンドブック](#)」を会員薬局及び会員の勤務する病院・診療所へ配布
- ②内閣府で作成した自殺対策ゲートキーパー養成研修動画(Disc②専門家編「薬剤師編」)について、会員にその存在とアクセス方法を周知した

▼紹介先リストの作成

- ①研修会后「連携をとる紹介先を把握すべき」との意見を受け、25年3月に「かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リスト」を作成(右図)
- ②会員薬局及び会員の勤務する病院・診療所の他、各市町村保健担当課など関係機関447箇所へ配布
- ③長野県薬剤師会薬局部会が中心となり、各地域薬剤師会の担当者が地域ごとの関連相談機関を調べた
- ④紹介先リストには実際の対応場面で活用出来る様、
 - ・自殺防止ゲートキーパーの心得
 - ・過量服薬防止において薬剤師がすべきこと
 - ・薬剤師がつなぐ可能性の高い紹介先のリスト
 - ・実際につなぐ際のフローチャート
 などを示した
- ⑤[長野県薬剤師会のホームページ](#)で「地域の相談機関リストのページ」を会員限定で公開



▼啓発しおりの作成と配布

「おくすりたまっていますか?」と呼びかけるしおり(右図)を作成し、県内900薬局と27書店に配布



【特筆すべき点】

- ・ 県薬剤師会は、長野県自殺対策連絡協議会の委員として、県の自殺対策の検討に参画している。

【成 果】

- ・ 研修会には延べ 268 名の薬剤師が参加。(H. 23～25 年度)
- ・ 研修後のアンケートでは、研修が有用だったとの意見が 96.5%と高い評価であった。今後ゲートキーパーとしての職能を果たしたいという意見が多く、自殺防止への意識の高まりと気づきにつながっている。
- ・ リストが適切な機関へ紹介するツールとなり、実際に受診行動や市の保健担当課につないだ例も数多くみられた。
- ・ リストを関係機関(病院・診療所、各市町村保健担当課など)にも配布することで、自殺防止に薬剤師も関わるべきであるという啓発になり、また関係機関に薬剤師がゲートキーパーを担う存在であるとの理解が広がった。
- ・ リストを作成する過程で、各地域の薬剤師会と関係機関のつながりが出来た。
- ・ 研修の討議で互いの体験を共有出来、また自殺念慮を抱く患者に対応した参加者が多数いる事が分かった。薬剤師がゲートキーパーとして役割を果たす重要性が認識された。

【同様の取組を行っている他自治体の特徴】

▼新潟県薬剤師会

- ① 研修会では、既に対策に取り組んでいる他県の薬剤師会理事、自死遺族会、自殺防止に取り組んでいる NPO、いのちの電話理事長、弁護士会人権委員長などを招いて [シンポジウム](#) を開催した。
- ② 薬剤師向けのゲートキーパーマニュアルを作成し、相談機関一覧表や支援情報の検索サイトの他、「情報共有の為にフォーマット」も掲載している。
- ③ マニュアルには、対応のポイントや対応事例も掲載している。

▼埼玉県薬剤師会

- ① 会員向けに調査を行い、過去 6 か月以内に過剰服薬者への声掛けをした薬剤師が 25%以上いる事が分かった。
- ② 県の委託で、薬剤師会が(独)国立精神・神経医療センターと協同で薬局・薬剤師向け DVD 教材を作成し、ゲートキーパー研修で DVD の活用法を周知した。また事後調査では、DVD の活用により情報共有が活発に図られるなどの有効性が明らかとなった。
- ③ ゲートキーパー研修会では、薬剤師だけでは対応できない複雑な問題への支援について、社会福祉士・精神保健福祉士と薬剤師との連携についての講演を行った。

▼福岡市薬剤師会

- ① うつ病スクリーニング自己チェック票と啓発ポスターを会員薬局へ配布。
- ② 小中学生対象に学校薬剤師による薬物教育を行い、いのちの大切さを啓発した。

【他自治体との取組の共通点】

- ① ゲートキーパー研修は、講義だけでなくロールプレイも盛り込み、現場で活用出来る様薬剤師としての関わり方や気づきのポイントを伝えている。
- ② 薬局で想定される「向精神薬の過剰服薬」や「問題飲酒」などの具体的事例を挙げ、対応方法を伝えている。
※薬剤師の他、理美容師や介護支援専門員等「専門職のゲートキーパー研修」は、講義とロールプレイがセットになっている事が多く、各専門職ならではの関わり方や気づきのポイントを伝えている。
- ③ 「薬剤師だからこそ出来る事」を伝え、研修受講の動機づけを図っている。
- ④ 薬剤師会と保健所が協同・連携して取り組みを行っている。

【事業種別】 研修実施(薬剤師対象)

【準備期間・人数】 講師調整、広報期間等で約 3 ヶ月・研修会当日運営スタッフ 5 名

【予防段階】 1 次予防

【自治体規模】 人口 209 万人(H. 26 年度) 財政規模 8491 億(H. 26 年度)

【自治体負担率】なし（地域自殺対策緊急強化基金活用のため）

【事業対象】医療従事者（長野県薬剤師会会員）

【支援対象】医療従事者、地域住民

【実施主体・問合せ先】 一般社団法人 長野県薬剤師会
〒390-0802 長野県松本市旭2丁目10番15号
TEL:0263-34-5511 FAX:0263-34-0075

【参考資料・文献】

(ア)内閣府先進事例集「長野県 薬剤師会の自殺対策への取組」(H27年度)

(イ)高田弘子、日野寛明、小泉典章(2014)長野県薬剤師会における自殺対策及び過量服薬防止への取組み—「かかりつけ薬局・薬剤師から関係機関への紹介先リスト」の作成— 信州公衆衛生雑誌 8 (2): 81~87, 2014

(ウ)[稲垣 正俊 「身体科と精神科との連携によるうつ病・自殺ハイリスク者の支援」 精神経誌 \(2011\) 113 巻1号](#)

(エ)[長野県薬剤師会 HP](#)